

やる気発生装置

教室通信 Vol.3 015

R 8. 2. 12

個別指導教室

セカンド・キャンパス

075-711-0399

<https://www.second-campus.com/>

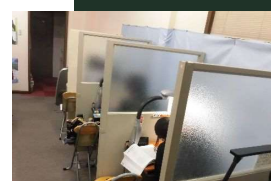
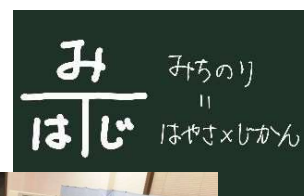
中学(1,2年)			高校(1,2年)			高校入試
修学院	高野	近衛	京都工学院	堀川	紫野	公立前期
2/16~	2/18~	2/18~	2/25~	3/3~	2/26~	2/16
第4回定期テスト	学年末テスト	第4回定期テスト	学年末考査	学年末考査	学年末考査	
あと4日	あと6日	あと6日	あと13日	あと19日	あと14日	あと4日

「はじき」は理解を助けるか、妨げるか

『わかる』と『できる』は違う」ということを、僕は塾をはじめたころから言っていました。20年以上前に、見よう見まねで初めて作ったチラシにそんなことを書いていた気がします。これはよく使われるんですが解釈が分かれる言葉で、学校の先生方は「解法を丸暗記して問題が解けるだけじゃダメで、仕組みをちゃんと理解しなければ意味がない」と、塾の先生は「どういうことか分かっているけど、問題を解いて点数を取る力がついてないとダメだ」という文脈で使うことが多いみたいです。あくまで僕の印象ですけどね。

小学5年生の算数で「速さ」を学習するシーズンに入っています。単位の使い分けを意識して、「速さ＝道のり÷時間」の関係にあてはめて計算することを学ぶんですが、ここで教科書にはあまり載っていない、通称「はじき」とか「みはじ」と呼ばれる図を使って教わることが多いです。これに数字をあてはまるだけで問題を解くようになることをものすごく嫌う先生方が世の中に多くいて、「わかる・できる」をめぐるせめぎ合いの象徴のようにもなっている話です。これを使って教えると教師失格みたいに言われることもあり、不用意に話題にすると炎上しそうで怖いんですが、（炎上するほど誰も読んでへんから心配せんとき）という心の声にしたがって、勇気を振り絞って書いておきます。

いろいろな意見はあるんですが、単位の仕組みや比例の關係に慣れていなくても「はじき」の図を使って答えを出せるなら、かなり効果的な道具じゃないかと僕は思っています。理解して式を立てられるまでの補助輪みたいなもので、補助輪って自転車に乗れない間に与えられてこそ意味あるものですからね。まずは補助輪を使ってでも漕ぎ出して動くこと、それを土台に理解へとつなげていくことが大事だという考えです。理解と実力がつながるまでの道筋は人によって違うので、それぞれに応援していきたいと思います。皆さんの考えもお聞きしたいところです。



僕は世代的になのか、小学校でこの図を習った記憶はないのですが…、方法は何であれ、うまく理解と実力につなげてほしいなと思います。

当面の教室予定

2/12(木)～2/13(金)

16:00～22:00

2/14(土)

10:00～12:00

16:00～22:00

2/15(日)

16:00～21:00

2/16(月)～2/18(水)

★早朝学習会あります★

7:00～8:10

16:00～22:00

※21時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させていただきます。

※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。